

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3471504542		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	福山ケアセンターそよ風		
所在地	広島県福山市松永町3-21-70		
自己評価作成日	令和 3年 4月 17日	評価結果市町村受理日	令和 3年 10月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あしすと
所在地	広島県福山市平成台31-34
訪問調査日	令和 3年 5月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の過去の生活状況を把握し、その人らしい生活を送れるように配慮しております。また体調管理をしっかりと行い、一人一人のペースを大切に家庭的で笑顔の絶えない日々を送れるようにしております。また、職員が健康で笑顔の絶やさぬよう気をつけております。事業所内にデイサービス、ショートステイもあり入居前にそよ風を知って頂き、慣れて頂ける様にもなっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は複合施設の3階にあり、海や山、松永の町並みが遠望でき、季節の変化が感じられる。隣の消防署やスーパー・生活用品店も多く、生活に便利で安心できる場所にある。コロナ禍のため、運営推進会議は開催できていないが、事業所の状況や情報をまとめ、メンバーへ送付することで関係継続に努めている。また、感染予防に留意しながら外出を企画し、利用者の気分転換の支援を行なっている。職員は利用者一人ひとりの思いを大切にしており、アセスメント・モニタリングを職員全体で確認することで、ケアや計画が充実させていることが挙げられる。また、家族への情報発信として、ビデオ通話で会話ができるよう支援したり、利用者の動画をみてもらい様子を伝えることで利用者との関係継続の支援に努め、家族の安心に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

特定非営利活動法人 あしすと

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念「一人の言葉を皆で聞く。」昨年六月に各ユニットでそれぞれ新しい理念を考え、共有し実践できるよう各フロアに提示している。	各ユニットで考えた理念をリビングの目につくところに掲示し、職員で共有している。ユニットごとに目標を設定し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染防止対策のため、行事開催ができなかったが、月一回、自治会の回覧板にセンターの通信を入れていただいた。	町内会に加入しており、町内清掃に職員が参加している。月2回、「そよ風通信」を利用者と一緒に自治会長へ持参し関係継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長や民生委員の方、地域包括支援センターにGHのたよりを送付している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染防止対策のため、運営推進会議は開催できていないがニヶ月に1度、近況報告を送付している。	コロナ禍のため、運営推進会議は開催できていないが、ヒヤリハット・事故報告、面会やコロナウイルスワクチン接種の情報などをまとめた書類を家族、自治会長、民生委員、包括職員へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことは、その都度電話を入れ回答いただいている。	管理者が窓口となり、介護保険の手続きなどは家族に相談しながら対応し、不明点などあれば電話などで相談し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束・虐待防止委員会」を設置し毎月ミーティングを行い、身体拘束・虐待のないケアへの取り組み、啓発を行っている。	委員会での検討事項を各ユニットで伝達・話し合いを行い職員全体で共有している。介護福祉士会実施のオンライン研修を全員が受講し、半年ごとに「虐待の芽チェックリスト」を行い、身体拘束や虐待のないケアに努めている。職員の気になる言葉があれば、管理者が声をかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止について十分理解し、自他ともに虐待が見過ごされる事がないように、定期的にチェックリストの記入を行い、虐待の芽となる行為がないよう取り組んでいる。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様はおられないが、制度に関しては研修等で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約はセンター長や管理者が行っている。十分に時間を取り説明し、不安な事や疑問にもその場で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。ご家族様の面会時には職員から挨拶し、日頃の様子をお伝えしている。ご家族様からの要望・ご意見は真摯に受け止め運営に反映させるよう取り組んでいる。	利用者からは日常生活の中で、家族からは電話や荷物を持参した機会に意見を聴いている。コロナ禍にあり、面会は禁止であるため、家族とビデオ通話で会話ができるよう支援したり、利用者の動画をみてもらい様子を伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、GHのミーティング等で職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また管理者は定期的に個人の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。	ユニットミーティングで利用者のケアやレクリエーションの企画について職員の意見を聴き、反映させている。個別に話を聞く機会も設けており、勤務希望や業務内容の見直しなどに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の力を十分に発揮し向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	力量に応じて様々な研修への参加をしている。社内での月1回の研修を行い又どのような研修に参加したいか職員の要望を聴いて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護福祉士会主催のオンライン研修にGH職員全員が参加した。同業者との交流はできなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、ご本人様、ご家族様の思いをしっかりと伺い、ミーティングで職員に本人様が必要とされていることを全員が周知し、安心して入居出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様としっかりお話しが出来る様、時間を区切らず、どんなことでもお話しを伺い、ご家族様の思いを尊重し安心して頂けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事情をしっかりと把握しサービスが受けられるように介護支援専門員を通じて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の状態を把握し持ちうる力の維持に努めている。日々の生活を通して馴染みの関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様、家族様との絆を大切にし、本人様が安心して生活していけるよう家族様に相談しアドバイスや情報の共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染防止対策のため面会禁止である。ラインビデオ通話を活用し、画面越しではあるが、家族様との繋がりが途切れないよう支援している。	受診時に、車窓から見える馴染みの場の話をする等、関係継続の支援をしている。以前勤めていた勤務先の名簿を見ながら、思い出話を聴くなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間以外に体操やお茶の時間にお声掛けをし、顔を合わせてお話しをされたり、入居者様同士が声を掛けあえる環境作りにつとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご連絡を頂くこともあり、関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前までの生活歴を把握したうえで本人様の思いを傾聴して、ここでの生活がより良いものになるよう支援を行っている。	入居時に把握した情報や家族からの情報を基に、本人本位に検討している。入浴時や夜間ゆったりしている時などに思いを傾聴し、申し送りノートに記載し職員全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や入居に至った経緯等をご家族様や介護支援専門員より情報をいただき把握できる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のミーティングにて入居者様の状態等に関してスタッフ間で情報交換を行い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで、本人様、家族様の意向をもとに心身状態に則した介護計画の見直しを行っている。	法人内で介護記録システムを導入している。本人・家族の意向を基にユニットミーティングで話し合い、3～6ヶ月で計画の見直しをしている。状態変化時にはその都度見直しをしている。アセスメント・モニタリングは職員全体で確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申送りをきちんと行うと共に日々の心身の状態を経過記録に残し情報を共有している。また、その情報を介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の状況を、その時々に応じて柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前までの生活歴を把握したうえで本人様の思いを傾聴して、ここでの生活がより良いものになるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	生活歴や入居に至った経緯等をご家族様や介護支援専門員より情報をいただき把握できる様努めている。	入居時に説明し、本人・家族の納得の上でかかりつけ医を決めている。2週間毎に往診があり、夜間・緊急時に対応できる体制にある。他科受診は職員で対応し、歯科は必要時往診があり、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月のミーティングにて入居者様の状態等に関してスタッフ間で情報交換を行い、把握に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月のミーティングで、本人様、家族様の意向をもとに心身状態に則した介護計画の見直しを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し送りをきちんと行うと共に日々の心身の状態を経過記録に残し情報を共有している。また、その情報を介護計画の見直しに生かしている。	入居時にできる事・できない事を説明し、本人・家族の意向を確認している。重度化した場合には、医師・家族と話し合い、意向に沿えるようチームで取り組んでいる。看取り後には、その時々に対応ケアについてミーティングで振り返りを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の状況を、その時々に応じて柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の消防署のご協力、ご指導のもと年2回消防訓練を行っている。地震、水害等に備えて備蓄を行っている。	コロナ禍にあり、消防署の指導は受けられなかったが、火災・災害の避難訓練を昼間想定で行っている。水・食糧3日分の備蓄もしている。	夜間の災害時を想定した避難訓練の実施と備品の整備・記録の整理を行なうことで情報共有ができ、利用者の安全確保に活かせるよう期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設全体でプライバシーについての研修を行っている。	接遇や個人情報保護について施設内で研修を行っている。排泄時は人格を尊重した対応に努め、入浴時はパーティションを設けるなど羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いをくみ取り、無理強いせず自分の思いが表現できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様がやりたいこと、過ごしたい内容を優先し支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1度美容師の訪問があり、入居者様の希望に沿ってカットをお願いしている。日々の口腔ケア等や身だしなみが整えられる環境を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	衛生管理マニュアルが変更になり、準備は出来なくなっている。食器拭き等は行えるよう支援している。	昼・夕食は厨房から配食し、朝食はキッチンで調理している。野菜を切るなど食事の準備を一緒に行い、行事食では季節を感じられるよう配慮している。誕生会では利用者好みのメニューを作ったり、ユニット毎に「和菓子の日」を企画し食を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録し不足時には好みに応じたものを提供し過不足のないよう提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声かけを行っている。本人様の力に応じた介助を行い、歯科衛生士の指導のもと清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握し声掛けを行いオムツに頼らずトイレにて排泄して頂けるように支援している。	仕草や排泄パターンから声掛け・誘導して、昼間は全利用者がトイレで排泄している。立位困難な利用者も複数名で排泄介助している。夜間は個々の状況に合わせて対応している。一日2回の体操を行ない、身体機能維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日二回体操の時間を設け、しっかり体を動かして頂けるよう支援している。牛乳やイージーファイバー等で排便を促す工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおよその入浴時間は決まっているが、なるべく希望に沿えるよう心掛けている。また、入浴日以外にも足湯を行っている。	週2回以上午前中の中の入浴を基本とし、足が冷えている人は足浴をするなど治療や清潔保持の支援をしている。利用者の好みの入浴剤を使用したり、会話を楽しむなど個々にそった対応をしている。拒否がある場合は、声かけのタイミングや対応の工夫に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は臥床の時間を設けたり、夜間は室温・湿度・照明に気を配り、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された定期薬・頓服等に関しては薬剤師より説明があり理解している。不明な点などは医師・薬剤師に連絡し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や家族様からの情報をもとに、レクリエーション等を通して気分転換が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるようドライブや花見等出掛けれるよう支援している。	向島へみかんを買いに行ったり、ケーキの移動販売車の利用や車窓からの花見など工夫して外出の機会を設けている。車椅子の利用者も、敷地内で日光浴やドライブを行い気分転換をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、センターでお小遣い管理し、現在は職員が買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて入居者様が電話をされている。年賀状・暑中見舞い等の手紙のやり取りが行えるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを入居者様と行ったり、入居者様同士が歓談できる場所作りを意識して行っている。	日当たりのよいリビングから海と島が見え、季節の作品を展示しており、季節感が感じられる。ソファでTVを見ながらくつろいだり、うたた寝している利用者もいる。明るさや温度も適切に管理され、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	寛げるようにソファを置いたり、気の合う方同士でゆっくり過ごせるよう席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の使い慣れた家具や椅子を持ち込まれ居心地の良い空間作りを支援している。写真を飾られたり、お孫様からのプレゼントを飾られたり、生活習慣を継続されている。	使い慣れたベッドや筆筒・テレビを持ち込み、家族の写真や孫が作ったおりがみ、本人の誕生日カードなど飾っている。ラジオを聴いたり、好みの花を飾ったり、加湿器で湿度調節するなど、居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレ・浴室などわかりやすく表示し個々の能力を生かし、安全に自立した生活が送られる様支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間想定避難訓練が出来ていない。	年2回、昼間想定と夜間想定避難訓練を行う。	年間スケジュールをたて、会議等で共有をする。	1ヶ月
2	35	備品の整備が出来ていない。	消防計画にそって備品をそろえる。	消防計画書を確認し備品を購入していく。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(別紙4(3))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

特定非営利活動法人 あしすと

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="checkbox"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="checkbox"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="checkbox"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他()